



創業以来、ファクターバイクは常にハイパフォーマンスを追求してきました。大胆に、そして限界を超えることを恐れずに。

私たちの歴史は 2007 年、イギリス・ノーフォークにある BF1 systems 社から始まりました。フェラーリ、アストンマーティン、ランボルギーニ、マセラティや、F1、Moto GP、WRC チームなど、世界で最も速く、最も名高いブランドの仕事を手掛けてきた、最高レベルのデザイン・チームによってファクターは設立されることになりました。

ここでは、ファクターバイクの現在の姿を形作ってきた様々なマシンを振り返ってみたいと思います。

## ファクターバイク・タイムライン

### 2009 年 - THE 001



2009 年、当時 BF1 Systems のマネージングディレクターであり、現在はファクターバイク UK のマネージングディレクターであるジョン・ベイリーが、彼のチームに新しいチャレンジとしてバイクの製作を課したときこそ、ファクターは自転車業界への第一歩を踏み出したと言えます。そして、それはただのバイクではなく、F1 的な発想で作られた、伝統にとらわ

れないスピードと完璧な完成度がすべてのバイクでした。

試行錯誤の末、F1の最新技術、知識、リソースを投入し、時代を超えた革命的なマシン、001が誕生しました。001は瞬く間に「最も先進的なバイク」と評され、その最先端テクノロジーと隙のない美しさで人気を博すこととなります。

フレームの設計だけでなく、独自に開発した脚力を記録できるエルゴノミックデータ記録システム、GPSシステム、心拍数、呼吸数、皮膚・体温などの生理学的データ収集システムなど、充実した機能を搭載させ、トータルで考え出されたデザインに進化させています。

このバイクはロンドン科学博物館で展示され、最も革新的なバイクとしてサイクリング業界に衝撃を与えることになり、しかも生産台数はわずか50台しかなかったのです。

## 2012 – THE ONE-77



BF1 Systemsの顧客であったアストンマーティン社とのコラボレーションが実現し、001をさらに洗練させ、生産台数はわずか77台のスーパーバイク ONE-77が誕生しました。001との主な違いは、世界的に有名な自動車ブランドが独自に設計したコックピットとこだわりの仕上げでした。また、バーとサドルは、アストンマーティン社の車内で使用されているものとまったく同じ革で手縫いされています。

## 2013 – VIS VIRES

001とアストンマーティン ONE-77は、何か特別なものの始まりを予感させるものでした。それは当初、BF1 Systemの単なるプロジェクトであったものが、自転車業界における独立したビジネスへと発展させるための扉となったのです。BF1 Systemに001の量産化の話が持ち込まれたとき、創業者たちはその機会だととらえ、ファクターバイクは自転車業界へ羽ばたく決心を固めたのです。

アメリカの代理店の協力を得て、F1にインスパイアされた前作よりさらに機能的で刺激的なバイク、Vis Viresが完成しました。UCIルールを全く無視した革新的なエアロダイナミクス、そしてそのエアロダイナミクスの優位性を最大限に引き出すためのトータルインテグレーションシステム、オールデータインワンモールドブレーキングパッケージ、オリジナル001パワーメータークランクセットなど、当然のことながらそのすべてを投入しました。



ところが残念なことに、最終的な風洞実験によってその性能が証明されても、すぐには Vis Vires の生産に移行できませんでした。それを完璧に製造する肝心の工場がなかったからです。

しかしその後、台湾に工場を持ち、世界最高峰のバイクの設計、エンジニアリング、生産に長年携わってきたロブ・ギテリスと出会うことによりこの問題は解決されたのです。

シンプルとは程遠いが革新的である Vis Vires に対するロブの反応は即座に「イエス」。Vis Vires は世界に公開されることとなったのです。



## 2015 年 - THE ONE

ロブの専門知識と業界における豊富な経験はジョン・ベイリーの心を動かし、ロブに主導権を渡す必要があるというサインと感じたようです。

契約成立後、ロブはすぐに Vis Vires を、より洗練されたフロントエンドと、ファクター史上初めて UCI 公認の合法的レース用バイクである ONE に仕上げる作業に取りかかりました。ONE は、ファクター初の本格的なレーシングバイクとして、プロライダーや専門エンジニアの意見を取り入れ、レーサーしか知り得ない経験を投入して開発が進められました。このエアロダイナミックマシンは、ファクターがイギリスの UCI プロコンチネンタルチーム、

ONE Pro Cycling のスポンサーとなった 2016 年シーズン、すぐにレースのスタートラインに立つこととなりました。

ONE は、当社のロングラン製品であり、発売以来、コンチネンタルからワールドツアーまで、さまざまなチームによって勝利を重ねてきたエアロバイクです。



## 2016 – THE O2

次に考えたのは、エアロダイナミクスを追求するのではなく、より軽量のバイクを作ることでした。快適な登坂力を持ちながら、あらゆる路面に対応できるオールラウンドなバイクを目指したのです。快適性、エアロダイナミクス、軽量性のバランスを追求した結果、O2 が誕生したのです。

発売と同時にO2は大きな話題となり、数ヵ月後にはワールドツアー・チャンピオンのスター、ロマン・バルデが、当時所属していた AG2R に 2017 年のテクニカルパートナーになることを打診してきました。ファクターはまだ業界内で足元を固めている段階でしたが、このチャンスは逃すことができません。ワールドツアーにステップアップするのはまさに今です。さて、リスクを取るか、チャンスを失うか・・・

会社にとって瞬間的な大躍進は、明らかにハードワークとストレスを伴うものですが、バルデが 2017 年のツール・ド・フランスで O2 に記念すべき勝利をもたらしたことで、その苦勞が報われ、夢は、現実のものとなりました。

その後、O2 はアップデートされ、この新しいバージョンは現在、当社の代表的なロードモデルの 1 つとして存在しています。

## 2017 – THE SLICK

ワールドツアーに参戦できたことで新しい課題が生まれました。それはワールドツアーレースで戦えるタイムトライアルバイクを開発することでした。これは私たちにとってすぐに行わなければならない最優先事項です。元プロでタイムトライアルのエキスパートであるデビッド・ミラー氏の指導とサポートを受けることで、レースシーズン開始後すぐに SLICK は誕生しました。これでワールドツアーに挑戦する準備が整いました。



SLICKのTwin Vane Evo ダウンチューブは、空力的効率とフレーム剛性を両立させるために、ダウンチューブを2本にしたもので、この特異な形状は001から始まったファクターの歴史の中で、ダウンチューブの開発が重要であることの証でもあります。

その1年後、ファクターはSLICKにトライアスロンに特化した機能を搭載し、トライアスリートの要求に応えその能力を拡大しました。

現在でも、トライアスロンやアイアンマンで最も人気のあるバイクです。

## 2018 – VISTA



2018年、私たちはさらには視野を広げ、「発見がある道への旅立ち」に挑戦することになりました。2012年のジロ・デ・イタリアの優勝者であるカナダ人、ライダー・ヘシェダルのフィードバックと技術支援により、VISTAの開発は実現しました。このバイクは、どこでも走ることが可能な"オールロード"バイクとして、カテゴリーの垣根を取り払うことをイメージして作られました。このバイクなら、ロードを気持ちよく走った後もすぐに、快適で冒険心をくすぐるようなアドベンチャーモードでトレイルに出かけることができます。

"VISTAはまさにオールロードの持つ気質、「限りない新しい発見」を表しています。"

- ロブ・ギテリス

## 2019 - O2 VAM



翌シーズンは、超軽量クライミングバイクを開発することが決定されました。O2と同じジオメトリーを維持しつつ、いくつかの重要なアップデートを施し、Velocita Ascensionale Media(VAM= イタリア語で平均上昇速度の意味)理論にちなんだ新しいバイク。それがO2 VAMです。O2との主な違いは、完全内装ケーブル配線、より硬いボトムブラケット設計、革新的なカーボン圧縮成型方法などです。

「O2 VAMの開発には約1年かかりました。形状はかなり早く設計できましたが、700g以下のディスクブレーキフレームで要求される乗り心地を実現するために、50回ほどの試行錯誤を繰り返しました。」

- ロブ・ギテリス

O2 VAMの評判は高まりました。2020年にはワールドツアーチームであるイスラエル・スタートアップ・ネイションとの新たなパートナーシップも決定し、モチベーションは最高潮に達し、さらなる技術革新が待ち望まれていました。そのような状況で、15年以上の豊富な業界経験と、バイクへの深い造詣、新鮮な視点を持つエンジニアリング・ディレクター、グラハム・シュライブが新たに加わることになったのです。

## 2020 - LS



グラベルサイクリングのブームが世界に広まる中、ファクターは、さまざまな状態の路面を難なく走るための純粋なグラベルレースバイク・・・LSの開発に踏み切りました。

当初から、ファクターの最優先事項は、パフォーマンスと速度です。それをグラベルシーンに持ち込み、新たな市場へと展開することは、次のステップとして理にかなったことでしょう。

スピードのために作られ、オフロードの剛性とレースにフォーカスしたハンドリング。この950gのワールドツアー用フレームは、現在、ルビー・ウエストやデニス・ヴァン・ウィンデンなど、世界クラスのグラベルレースやオフロードレースのアスリートによって世界中で「過酷なレース」のために使用されています。

## 2020 – OSTRO VAM



2020年のシーズン後半、ファクターで最も成功したユニークなプロジェクトによって、OSTRO VAM が誕生しました。

この「何でもあり」のエアロバイクは、イスラエル・スタートアップ・ネーション（現イスラエル・プレミアテック）と共に、様々なシーンに適したレーシングバイクの開発を意図して設計され、ダン・マーティンのような世界クラスのクライマーや、スプリンターのアンドレ・グライペルなどタイプが異なる戦士にも「戦えるバイク」として使用してもらうことが目標でした。

「OSTRO VAM では、ライダーからのフィードバックに耳を傾け、彼らの希望に応えるために小さな剛性変更を細かく調整してきました。ライダーからのフィードバックは常に貴重であり、私たちのエンジニアリングチームにも好意的に受け止められています。そしてなにより、専用の製造工場を持つ私たちだからこそ、このような変更にも迅速に対応できるのです」

と、ロブは語ります。

そして、アンドレ・グライペル、ダン・マーティンの両選手にとって完璧なレースバイクが完成しました。マーティンが（2020年）プエルタ・ア・エスパーニャの第3ステージで、OSTRO VAM の上り坂のスプリントフィニッシュで優勝したのは、非常に特別なことでした。

OSTRO VAM は、2020年のツール・ド・フランスでチームによってデビューし、ライダーからの大好評を受けて、その後まもなく市場に投入されています。

コートダジュールとニースを吹き抜ける風にちなんで名付けられたこのバイクは、現在、ワールド・ツアーを見渡してみても、イスラエル・プレミアテックの人気とともにレースバイクとしての地位を確立しています。

## 2021 – HANZŌ



ファクターの最新モデルは、UCI ガイドラインに準拠した世界最速のタイムトライアルバイク、HANZŌ（ハンゾー）です。

HANZŌ は、UCI ガイドラインに基づき、世界最速のタイムトライアルバイクとして開発されました。忍者の刀を模して名付けられたこのエアロダイナミックバイクは、ツール・ド・フランス 4 連覇のクリス・フルーム、タイムトライアル専門家のアレックス・ドーセット、イスラエル・プレミアテックのエキスパート、スポーツ科学者のポーロ・サルダナ、空気力学専門のキアラン・オグレディと共に開発されたものです。

このバイクは、チームを新しいレベルのパフォーマンスへと引き上げるために作られました。設立以来、彼らはワールドツアーで順位を上げ続け、世界有数のプロサイクリングチームの一つであることを証明し続けています。チームにはタイムトライアルや GC のスペシャリストが多数在籍しており、彼らのためにも私たちは次のステップとして、ワールドツアー専用のタイムトライアルバイクをチームに供給することが必要でした。これはあらゆるルールに対して極限まで精査することで、最速のマシンを作り上げることが論理的に可能になったことで成し得ることができました。

2021 年、チームは HANZŌ をトレーニングやレースで試用し、貴重なフィードバックを得ながら、重要な役割を果たしました。その結果、タイムトライアルで常に上位に食い込むことができ、勝利することもできたのです。

私たちのバイクは過去 15 年間で大きく進化してきましたが、当初から一貫しているのは、イノベーション、スピード、パフォーマンスに対する私たちの飽くなき追求です。レースは私たちの DNA の中にあり、それはモータースポーツにおける私たちのルーツに直接つながっています。私たちの旅はこれからも妥協することなく、最高レベルのエアロダイナミクスと完璧な美しさを求め続けていきます。